

## 中期プラン編構成案

|                                | 基本戦略                  | 重点方針                        | 未来創造部会委員意見  | 総合計画審議会委員意見  | 県民からの主な意見  |
|--------------------------------|-----------------------|-----------------------------|---|--|--|
| 「地域力」<br>(地域の活性化・地域づくり・地域で支える) | I にぎわい<br>～地域の活性化～    | ①交流(交通、情報等)                 | ・公共交通機関の充実と自転車の整備は欠かせない                               | ・ICT化の一層の推進による県民の利便性、安全・安心等の向上   | ・路線バスの不採算路線をコミュニティバス化することなどにより、車(免許)を持たずとも、地域内の移動に不自由がない徳島を目指す   |
|                                |                       | ②観光・国際交流                    | ・住民自らが町の魅力を探し出し、地域資源として見直すことで、観光資源へと高めていく             |  | ・県等が異業種交流の機会を設けマッチングを行うことにより、観光地周辺の農業・企業・観光業等が連携して、地域の特産物を商品化し、売れる「観光みやげ」を開発<br>・地元企業の工場見学(大塚製薬や日亜化学など)と観光地を組み合わせた「産業観光」を推進  |
|                                |                       | ③文化                         | ・地域の「祭り」の継続や復活のための支援が必要                               |  | ・新町川沿いの水辺の潤いとアニメなどサブカルチャーを組み合わせたイベントをさらに充実   |
|                                |                       | ④スポーツ                       |   |  | ・スポーツ少年団の指導者に対する研修や指導、また、総合型地域スポーツクラブとの連携により、子ども達に多くのスポーツに触れさせ、能力に合った競技を選択できる環境づくりを行い、国際舞台で活躍できる選手を育成<br>・高齢者の医療費の抑制や糖尿病死亡率の改善には、10年スパンでの取り組みが必要であり、現在40～50代の県民が公共交通機関利用促進により、歩く時間を増やすなど、より積極的に運動を行う「県民運動」のような機運の醸成が重要     |
|                                | II 経済・雇用<br>～地域の活性化～  | ①支援体制                       | ・地域の産品や伝統を発信することで、地域に恩恵が得られる仕組みが必要(地産地“商”)            | ・現在、徳島市は経済センター、徳島テクノスクールの沖洲移転、東環状道路、新たな耐震岸壁の整備など、東に向かって発展し、基盤整備が進んでいる。この地区を本県発展の基盤として焦点あてその方向性を描く必要がある   | ・空店舗や土地を若者に安価に賃貸する制度や出店した店舗を無償でPRすることで、中心市街地の活性化を図る<br>・大型商業施設に負けない利便性の高い地元商店街の再生  |
|                                |                       | ②企業育成・起業支援                  |   |  | ・農村地域では、農産物に付加価値をつけて販売するなど、女性が元気であるため、女性の経営や創業を支援する制度を構築   |
|                                |                       | ③新産業創出                      |   |  | ・家庭向けあるいはコンビニ向けの小型植物栽培装置(ミニ植物工場)に種苗・肥料等を付けたセットの製造・販売を推進  |
|                                |                       | ④雇用                         | ・緊急雇用も良いが、雇用される人のスキルアップを図り、継続した就労に繋がる施策が必要            | ・「働けない」「年金がもらえない」など、「貧困」に関する相談が増えており、対策が必要   | ・県が産・学の連携を促進することにより、高校・大学等で地元企業が求める人材が育成できるようにし、本県の学生が本県で就職できるように努める<br>・海外企業向けの大胆な優遇制度と規制緩和により、海外企業の進出を図り雇用を増やす<br>・植物工場により農作物の生産を行う農業法人を設立し、若者に安定した雇用の場を創出   |
|                                |                       | ⑤次期ブランド戦略                   | ・地産地消を進め、県内の食料自給率を向上                                  | ・県の伝統野菜を利用した地産地消の推進<br>・地産地消の取組を県全体に広げるべき<br>・地元の旬の味の大切さを伝えていくべき<br>・地元食材を使った給食の推進   | ・地域の農産物を加工し、付加価値を付けて販売することにより地域を活性化(地元の農産物等を利用した健康志向の農家レストラン経営や土産物販売など)<br>・農畜産物の付加価値やブランド力を高め、中国、韓国、台湾など東南アジアへの輸出を促進<br>・大規模な産直市を開設するとともに、自ら出荷できない人の集荷システムを整え、中山間地域の人々が元気に働くことができる社会を目指す<br>・養殖漁業の推進・効率化を図るとともに、ブランド商品を育成 |
|                                |                       | ⑥次世代林業                      |   |  | ・県産木材で家を建てた場合は、固定資産税を5年間免除し、県産木材の使用量(木材自給率)を増加させる  |
|                                | III 安全・安心<br>～地域をつくる～ | ①体制・治安                      |   | ・関係機関の連携、啓発による自転車マナーの向上<br>・豊かな住生活を目指していく時代であり、耐震化率、省エネ化率、バリアフリー化率等に留意しながら、徳島県における住宅の質の問題を重点的に考えるべき  | ・県内におけるLED式信号の割合を100%にし、視認性の向上により交通事故の減少を目指す   |
|                                |                       | ②地震・自然災害                    |   |  | ・こどもの学舎であるとともに、地域の方の避難場所ともなる小・中・高校の耐震工事を早急に行い、学校の耐震化率アップを図る  |
| ③食の安全安心・消費者                    |                       |                             |   | ・食の安全を確保するため、食品加工業者における輸入や加工の過程を、さらに透明化させる取組が必要  |  |
| ④医療                            |                       |                             | ・医師が2年間は必ず地域医療に従事するシステムづくり<br>・海部病院に療養の病床や緩和ケアセンターを設置 | ・本県出身の医師が、本県へ戻ってくるシステムの構築を行い、医師不足の解消を図っていく必要がある<br>・病院など医療機関の偏在を解消し、住みやすい環境が整った地域を実現<br>・ドクターヘリによる広域的な取り組みにより県民の生命を守る  |  |
| ⑤健康                            |                       |                             | ・歩道の整備を促進(ウォーキングによる糖尿病対策、お遍路さんの安全・安心)                 | ・健康づくり先進県を目指して、県立総合大学の主催講座として、民間指導者が事業所などに出向いて「山登り教室」「マラソン教室」などを行うとともに、休日には「山登りイベント」などを開催し、県民の活動の拡大を図る<br>・運動を目的とした様々なイベントを開催、運動施設やウォーキングロードの設置等により、糖尿病患者の減少を目指す |  |
| IV 環境<br>～地域をつくる～              | ①地球環境                 | ・今後はエネルギーの地産地消について検討する必要がある |   | ・太陽光などの自然エネルギーやバイオマスエネルギーなど、新エネルギー導入を促進し、環境首都とくしまを実現<br>・人・自転車等のための道を整備して、自動車中心の街から人中心の街に転換  |  |

|                                |                 |  |  |  |  |
|--------------------------------|-----------------|--|--|--|--|
| 「地域力」<br>(地域の活性化・地域づくり・地域で支える) |                 |  |  | ・レジ袋有料化の取り組みを県下一円に広げることで、環境首都とくしまを全国にPR、また、家庭からエコ活動を考える契機とし、一層の循環型社会推進を図る  |  |
|                                | ②循環型社会づくり       |  | ・デポジット制度の推進  | ・家電製品やパソコンだけではなく、ペットボトルをはじめ幅広い製品でデポジット制度が導入され、リサイクルの仕組みがしっかりと確立された社会の実現  |  |
|                                | ③美しく良好な環境       |  | ・漂着ゴミ対策(上・中流域の住民に対し、河川にゴミを捨てないよう意識改革を徹底)<br>・川を活かしたまちづくり(護岸整備、川に向けた店舗、水上バス等) | ・四国八十八カ所の世界遺産登録に向けて環境美化運動を推進<br>・ニューヨークのセントラルパークのように、100年後を見据えた自然環境の保全・創造、街・景観づくりを進める思想と取組が根付いた徳島の実現   |  |
|                                | ④自然との共生・森林づくり   |  |  | ・「次世代に残したい自然」をテーマに広く募集を実施し、上位は開発等に一定の制限を加えた保護措置を行うことで、誇れる自然環境・景観の保存を促進する   |  |
| V 福祉<br>～地域で支える～               | ①子育て環境の充実       | ・行政や地域の人たちが子育てのサポートをしてくれる安心して子どもが産める社会の実現  |  | ・幼稚園・保育所と老人福祉施設の機能を併せた総合的な施設を設置し、子どもから高齢者まですべての人の心がふれあう、住みやすい社会を目指す  |  |
|                                | ②高齢者・障害者        |  | ・地域格差のない、誰でも介護施設が利用しやすい仕組みづくり  | ・介護人材を確保するため、待遇等の改善に取り組むとともに、中高生を対象とした介護施設での職場体験等により、介護分野への就職を支援<br>・障害のある方の雇用の場を確保する等、障害の程度に応じた自立を支援し、地域や社会との関わりをもつことができる体制づくり  |  |
|                                | ③ユニバーサルデザイン     |  |  | ・外国語によるサイン類の設置など、外国人が住みやすいまちづくりの推進   |  |
|                                | ④地域の共助・共生       |  |  | ・介護のボランティアの充実・組織化を図るなど、地域の高齢者は地域で面倒をみることができる仕組みづくりが必要  |  |
| VI 教育<br>～地域で支える～              | ①自立したたくましいひとづくり | ・将来の介護人材を確保するため、中学校にヘルパー3級等の資格取得のカリキュラムを取り入れれば、災害時にも活躍できる<br>・小学校からの中国語(英語)教育により有能な人材を育成 | ・語学のスーパーモデル校をつくり、国際的に活躍する人材を育成(県外からも生徒を呼び込む)<br>・田舎からも中高一貫校に安心して通えるよう学生寮を整備  | ・小中高校で英語以外の第二外国語(中国語など)を学べるようにし、国際人として活躍できる人材を育成<br>・習熟度別授業を実施し、個々のレベルに対応した授業により効率的に学力の向上を図る<br>・思いやりや助け合いの精神を育むため、学校・家庭・地域が連携し、道徳教育を充実<br>・「進学クラスの創設」等により、学力面で伸びる人を伸ばしていく教育が必要<br>・学区制を見直し、自分の希望する学校を選択することができる入試制度とする必要がある |  |
|                                | ②特別支援教育の充実      |  |  | ・特別な支援を必要とする子どもに対し、自立を支援する教育を充実させる必要がある  |  |
|                                | ③地域連携           |  |  | ・山村地域に「英語特区」など英語学習に特化した仕組みをつくり、「山村留学」と併せて行うことにより、子どもを呼び込む  |  |
|                                | ④生涯学習           |  | ・生活を支える基盤としての住まいに関して、県民がより関心を深めるよう、「住まいに関する教育」に積極的に取り組むべき                    | ・今後一層の高齢化を見据え、コストをかけずに全県的に生涯学習を推進(無料で講師を務めてくれる人のネットワーク化、廃校となった学校や合併で空いている公共施設の利用など)する必要がある   |  |
| 未来創造                           | VII 宝の島とくしま     | ①人権  |  | ・人の温かさなどを養うには、教育が重要であり、これは人権教育に集約される。今後、根本的に教育を見直す必要がある  | ・子どもや高齢者に対する虐待(ネグレクト含む)のない社会の実現  |
|                                |                 | ②新しい公共   | ・町づくりに関し、NPOや民間が、主体となって動ける環境づくりが必要   |  |  |
|                                |                 | ③活力と希望にあふれたとくしま  | ・都市機能のコンパクト化を進める必要がある  | ・県のHPIに県内の空家情報をまとめて掲載し、定住に繋げる  | ・徳島を第2のふるさとに登録してもらった方に、ICTを利用した情報発信や特典を付加する「セカンド県民制度」を実施し、交流人口を増加させ、活性化に繋げる。 |

※「基本戦略」「重点方針」の項目名は、分野を示したものであり、表現ぶりについては、今後、検討する。